

哲学文化塾機関誌

# フィロカルチャー

もっと源流へ、  
もっと本質へ!

## La Philoculture

# 春夏

spring & summer

## 2019

世界遺産

✿ ガラパゴス諸島で垣間見た、動物の秩序 バットフィッシャー・アキコ

なっちゃん

✿ 世界は多重にできている *piece 2* 分きたい! 夏目愛佳  
でも分けられたくない!

第1回・講座アワーハウス

✿ タイムマシンはなぜ造れない? ヤナギダ・カツミ

ギリシア悲劇  
『オイディプス王』

解釈をめぐるロゴス前編

## 川島重成

今道友信メモリアル・シンポジウム案内

IMS2019 夏公演 お芝居レトロ鍋版・朗読劇  
ソクレス 『オイディプス王』

IMS2018・ルポ 劇団 Human Dust Union コラボ公演  
『太陽と月～ジャンヌ・ダルクの光～』 ルポ

◆ 美は輝きた・第3回——美とカロノロジー——

◆ 「わが哲学を語る」を語り継ぐために・第3回「人生の贈り物」

◆ 詩人哲学者は哲学的詩人なのか みむらりえ



# Contents

ギリシア悲劇 『オイディプス王』

解釈をめぐるロゴス (前編) 川島重成・談 ……3

第1回講座アワーハウス

タイムマシンはなぜ造れない? ヤナギダ・カツミ ……9

世界遺産

ガラパゴス諸島で垣間見た、動物の秩序

バットフィッシャー・アキコ ……12

美は輝きだ 第3回——美とカロノロジー—— hamacken ……14

フィロカルチャー IMS2019 夏公演

お芝居レトロ鍋版・朗読劇

～テーバイ王家物語・第1部～

ソポクレス 『オイディプス王』 ……15

IMS2018・ルポ

劇団 Human Dust Union コラボ公演

『太陽と月 ～ジャンヌ・ダルクの光～』 ……22

今道友信メモリアル

「わが哲学を語る」を語り継ぐために 第3回

人生の贈り物 ～人生の贈り物～ ……23

なっちゃんの世界は多重にできている *piece 2*

分けたい! でも分けられたくない! 夏目愛佳 ……24

～詩人哲学者は哲学的詩人なのか～ みむらりえ ……26

ギリシア悲劇

## 『オイディプス王』

解釈をめぐるロゴス 前編

川島重成・談

構成・収録：演賢 (hamacken)

二〇一七年、光文社古典新訳文庫で『オイディプス王』が出版された。その「解説」欄で、「イオカステはいつ気づいたのか」という見出しで、川島説があつさり否定されていることが気になり、お話を伺うことにした。結果、やはり川島説はとても魅力的で、面白い! いつもながら、解釈のパワーが圧倒的だ。ただ記事を作るに当たって、検証と解釈を伴うため、分かりやすく首尾よくまとめられたかどうか疑わしい。次号までに、もう一度川島先生に相談しようと思っ

## ギリシア悲劇のトボス

まず、ギリシア悲劇の特徴をいくつか確認しておきます。悲劇はアテナイ（今日のアテネ）の民主政成立（前五〇一年）とほぼ同時に導入され、民主政ポリスの崩壊（前四世紀末）とともに衰退するという、民主政ポリス・アテナイと強く結び付いた特殊な文化現象といえます。社会的・政治的コンテキストからいえば、前五世紀、アテナイの国家行事である大ディオニュシア祭に奉納されたものです。また市民の代表による投票で順位が決まる競演制度が存在していました。

## 民主政ポリスとの結び付き

注目すべきは、この競演制度が、民主政の根幹を成す民会、裁判制度と多くの共通点を有することです。三者とも競い合いという意味で、アゴーンと呼ばれました。

実は、これに限らず、ゼウス神に奉納されたオリンピック競技会も哲学的論争もアゴーン、つまり公開の場で、優劣を競い合うアゴーンは古代ギリシア社会を貫くエートス（特性、習慣的行為性向）でした。

しかも、民会、裁判、演劇（言葉＝ロゴスのうことは、パブリックに聖なる空間と時間の中に入ることを意味し、そのことがどのように機能していたのか、以前、次のように書いたことがあります。

古代ギリシアで人間が神々と最も近く向き合うことができたのは、目を疑うほどに濃い青空の下、強い陽光に全身を晒す屋外空間においてであった。その一つが間違いない屋外劇場であったと思われる。厳しく恐ろしい運命と邂逅せしめ、人間の真実を凝視させずには措かない悲劇体験が、一個人の内奥への沈潜でも閉塞でもなく、むしろ自分への囚われからの開放であり、さらに市民として自らが立つイデオロギーからの自由、それを踏まえての共同体への新たな参入を促すものであり得たのは、悲劇を演じる場、それを見る場が広々とした天空を仰ぎ、外なる神々に目を向けさせる、オープンな屋外劇場であったことに依るところも大きいのではなからうか。

## 神話と伝説——もう一つの宗教的要素——

もう一つの要素は、現存する悲劇のほとんどが、神話・伝説に素材を求めたものであることです。



アゴーン）は専門家ではなく、市民が判定を下す、これは市民（ポリテース）を信頼するという理念に基づいています。演劇はまさに、本来の言葉の意味においてポリス的な（ポリテイカル）営み、そして政治（ポリテイクス）は演劇であることがメタファーではなく、リアルな意味を持つていたといえます。

悲劇が国家事業であり、市民のものであることに関連して、悲劇の最も本質的な要素である合唱隊がアテナイ市民で構成されたこと、上演に際しては、観劇代（国庫からの観劇手当）が支給されたことも押さえておきたいところです。

劇作家は周知の神話・伝説に新たな息吹を吹き込み、前五世紀のアテナイ社会に神話・伝説を再生させました。同時に、それは同時代から距離を置くこと、すなわち、ポリス的枠組みの外側からの、いわば神の視点を持つことでもあります。

人間の存在が、対人間、対社会で終わらず、神々と運命、あるいはダイケトと呼ばれる根源的秩序との関わりで解釈され、あるいは解釈されるべきものとして提示される、ここにギリシア悲劇の宗教性が顕著に現れています。

## 発見と逆転

知ること（無知から知へ）、つまり発見により状況が逆転する、しかも必然的で避けられない結果として起こる、これが、優れた悲劇の典型であるとして、アリストテレスが「オイディプス王」を劇構成の点から激賞した理由です（アリストテレス「詩学」）。この発見とはオイディプスが自分の恐ろしい素性を知ること、しかも自ら主体的に。

さらに踏み込んでいうなら、『オイディプス王』の圧倒的な迫力は、卓越した劇構成にとどまるのではなく、発見が運命の逆転を必然的に伴う質の真理の開示であったところに存在します。真理とは、具体的にはアポロン神託の正

## 宗教性——聖なる時空間の中へ——

悲劇は、アテナイ民主政の理念を担った極めて政治的な営みであったと同時に、あくまでもデュオニュソス神に奉納された宗教劇でもあったことを忘れてはなりません。

アテナイ市民は日々の暮らしの中で生じるさまざまな問題に個人的に取り組みながらも、つまりパブリックにポリス市民としての宗教的視座が保障されていました。

その機会の一つが、間違いなく、大ディオニュシア祭での悲劇だったので。屋外劇場に集

★日本語版紹介：(1)は(かつての)スタンダード、かさばるが、岩波書店の全集3（ソポクレース1）のほうが信頼できる。(2)は蜷川演出・萬斎主演の舞台用に訳されたもの。分かりやすく、日本語もいい。(3)が最新の日本語版。上演視点が尊重されていて良いが、古典学者（ギリシア語を知ってる人）が見ると、？な箇所があるかもしれない（解説トカ）。



(3)『オイディプス王』、河合祥一郎・訳、光文社古典新訳文庫、2017年。



(2)『オイディプス王』、山形治江・訳、劇書房、2004年。



(1)『ソポクレース オイディプス王』、藤沢令夫・訳、岩波文庫、1967年。

当性なのです。つまり、ライオス（オイディプスの実父）に、そしてオイディプスに下された運命を告げる恐ろしい予言が、知らぬ間に、既に成就していたことの発見です。

### 舞台を見る二種類の目

舞台上でアポロンの真理が開示されてゆくこのドラマには、二種類の目が存在しています。オイディプス伝説を熟知し、特権的に、神の視点を与えられている観客の目とドラマの内部で運命に翻弄され、真実が見えていない登場人物たちの目です。

ただし、登場人物の中で、全てが見えている盲目の預言者、テイレスシアスはドラマの内部にいなながらも例外として、観客とともに、いわばアポロンの目をもって、見えていないオイディプスに相対しています。

### 知らぬ者から知る者へ

しかしこの視点の対立は固定されたままとどまることなく、イオカステ（オイディプス王の母にして妃）もオイディプスも知らぬ者から知る者へと、真理を発見することで、変化させられる、これが『オイディプス王』のプロット展開です。



川島重成（かわしま・しげなり）  
西洋古典学者、国際基督教大学名誉教授。東京大学大学院修了。著書『ギリシャ悲劇の人間理解』（新地書房）、『西洋古典文学における内在と超越 ホメロスからパウロまで』（新地書房）、『「イーリアス」ギリシア英雄叙事詩の世界』（岩波人文書セレクション）、『「オイディプス王」を読む』（講談社学術文庫）、『ギリシア悲劇 神々と人間、愛と死』（講談社学術文庫）、『アポロンの光と闇のもとに——ギリシア悲劇「オイディプス王」解釈』（三陸書房）ほか多数。

イオカステはオイディプスよりも先に発見に至ります。オイディプスが、自他ともに認める卓越した知性と真理探究への情熱的決意をもってしても、なかなか発見できないにもかかわらず、イオカステは偶然にして、自分たちの恐ろしい真理を発見してしまうのです。

### イオカステはいつ知ったのか

では、それはいつなのでしょいか。もちろんテキストにト書きなどありません。

通説では、第三エピソード（エピソード）の一〇二五―一〇四〇行あたりとされています。つまり、オイディプスとクリントスの使者との息詰まる応酬の中で、かつてライオス家の羊飼いが、キタイロンに捨てたはずの赤子を、このクリントスの使者（当時羊飼い）に託したことが明らかになったときです。その後を含め、岩波文庫から引用しておきましょう。

使者 それならば、そのご懸念は何のいわれもなきものと、ご承知あれ。

オイディプス 何でいわれなきことがあるう。この身がいやしくも、あの方々より生まれた子であるかぎりは。

使者 ポリュボス様はあなたにとって、何

の血のつながりもないお方でした。オイディプス 何と申す。ポリュボスはわしの親ではなかったというのか。

使者 さよう——この私があなたの親ではないのと同じように。

オイディプス この身を産んでくれた人が、どうして赤の他人と同じなのか。

使者 いいえ、あなたを産んだ人ではないのです。——ポリュボス様も、この私も、オイディプス それなら一体、なぜわしを、我が子と呼んでおられたにか。

使者 あなた様をその昔、私がこの手から、差し上げたのでございます。

オイディプス それなのに、他人の手から受け取った子を、あまで慈しむようになられたのか。

使者 はい、あの方にはそれまで、お子様がございますでしたから。

オイディプス してお前は、このわしを、誰ぞより買ひ取ってあの方に渡したのか、それともどこかで、拾い上げたのか。

使者 キタイロンの山ひだ深き所で、見つけたのでございます。

オイディプス そのような所を、どうしてまたお前は、歩いてきたのか。

使者 そこで私は、山の羊たちの番をいたしておりました。

★参考図書：(4)二昔前のものだが、上演形式や劇場の解説、用語集など充実して、便利。(5)こんな風に解説されると、観劇しなくても、読むだけで、面白くなってしまいますので、危険。(6)タイトルは、詩学ではなく、悲劇論とするほうが適切（原題直訳は「創作について」）。当然ながら、詩論のほうが原稿完成度は圧倒的に高く、面白い！



(6)『詩学』松本仁助、岡道男・訳、岩波文庫、1996年。



(5)『「オイディプス王」を読む』川島重成、講談社学術文庫、1996年。



(4)『ギリシア悲劇全集別巻』、岩波書店、2002年。

オイディプス ではお前は、羊飼いであったのか。雇われるためにさまよい歩く者だったわけか。

使者 でもあのときには、我が御子よ、あなた様を救ってさしあげた者。

オイディプス さりとは、どんな難儀な目に遭っていたと申すのか——わしがそなたの腕に拾い上げられたときに。

使者 あなた様は両足のくるぶしが、それを物語るでございましょう。

オイディプス おお、なぜこの古傷のことに触れるのだ。

使者 両足を刺し貫いた留め金を、私は抜いてさしあげました。

オイディプス いかにもわしは襤褸の頃より何という、ひどい辱めの印を身に持ったことか。

使者 あなたが今のお名前で、呼ばれるようになりましたのも、そのことのため。

オイディプス 神々に誓って、教えてくれ、わしにそんなことをしたのは、母上か、父上か。

使者 存じませぬ。そのことならば、あなたを私に手渡した男が、もっとよく知っておきましょう。

オイディプス なに、ではお前は、このわしを、他人から受け取ったのか。自分が見



※記事作成に当たり、「ヘイライヴイウム」第五四号(二〇〇三年二月六日)所収の「『論文』『オイディプス王』における真理と仮象——ギリシア悲劇の政治性と宗教性——」を参考にさせていただきました。

めて重大な意味があると考えるからです。

### イオカステーの決意

最初の言及(七〇七―七二五行)では、予言者とアポロン神を明確に区別して、人の子である以上、予言者も間違いを犯すこともあるから、テイレスアスの言葉で心を乱すには及ばないというロジックを用います。

ところが二度目の言及(八四八―八五八行)では、もはや予言者とアポロンを区別し、予言者の誤りのみを指摘し、アポロンを非難することを控えるという心の余裕を失っています。

ここに、イオカステーの女性としての必死の抵抗が始まったといえるのではないのでしょうか。

イオカステーは真実に直面したとき、どのような状況になろうとも、母として我が子を生きたがらえさせるために行わなければならないこと、また妻として夫とともに生き抜くためになすべきことを、本能的に直感し、即刻、実行に移したと考えます。

引き続き、次号では、このイオカステーの決意について補足検証するとともに、アレーティア(真理)、テュケー(出来事、成り行き、運、偶然、運命)、ダイモーン(神)などをキーワードとして、オイディプスの発見の意味を掘り下げて考察します。(二〇一九年六月八日、新稿)

つけたのではなかったのか。  
使者 いいえ、ほかの羊飼いが、私にくれたのでございます。  
オイディプス それは誰だ。どの誰かを、定かに申すことができるか。  
使者 確かライオス様の、家来とかいうことであります。  
オイディプス ライオスとは、この地の昔の王であったライオスのことか。  
使者 いかにも。そのライオス様に仕える、羊飼いだったのでございます。  
オイディプス その男、今もなお生きていて、直接会うことができようか。  
使者 それは、この地に住むあなたの方が、一番よくご存知のはず。

(藤沢令夫・訳、岩波文庫)

けれども私は第二エペイソディオンで、オイディプスがデルポイで受けた恐ろしい神託(自分の母と交わり、見るに耐えない子孫を世に示し、自分を産んだ父親の殺害者となること)を語ったとき(七八七―七九三行)に、それを聞いてしまったイオカステーは全てを察知したと考えます。

なぜなら、イオカステーがその前後で、二度アポロン神託について言及しますが、両者のニュアンスに明らかな違いがあり、そのことに極

# タイムマシンは

## 第一回

## 講座アワーハウス

# なぜ造れない?

夢の機械タイムマシンは、なかなか実現しませんが、  
そもそも、タイムマシンの利用価値とは何でしょう。

未来に行って、当たり馬券を調べますか？

過去に行って、人生の過ちを修正しますか？

タイムマシンで何をやる?

ところがこれらの行為は、自分だけがタイムマシンを持っているという前提の話であって、みんなが持ってしまおうと話が変わってきます。

まず競馬では全員勝ち馬を知っているので、オッズは1倍となり、ギャンブルが成立しなくなります。つ

まり全出走馬券を買っている場合と変わらないのです。

また誰もが人生をやり直せるので、今を生きるという意味がなくなるか、あるいは他人より有利になるため、やり直し競争が起こるでしょう。

これでは現在の生存競争と何ら変わりなく、むしろ複雑化した分、苦勞が増えてしまいそうです。つまり人生というギャンブルも成立しなくなるわけです。

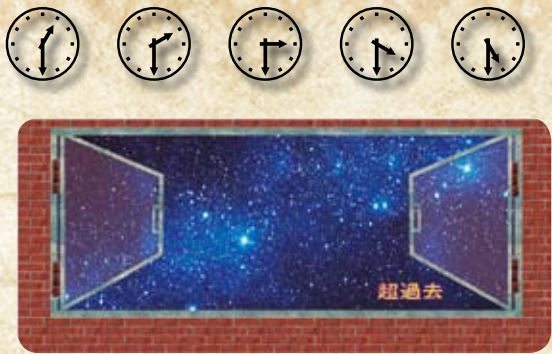
結局タイムマシンの一般への普及は、全員が勝手に移動してしまうので、もはや時間旅行とは関係ない、別の環境や場所へ移動しただけと同じになってしまいます。

過去に行ったら現場を変化させてはいけないうというSFドラマのルールなど、隣国の民が数億人規模で移動したらどうなるか、誰の目にも明らかです。



## リアル・タイムマシン

一方実用的タイムマシンは、亜光速で移動したり、強い重力のそばにいて体内時計を遅らせ、未来を目指す方法がありますが、元にはもどけません。これは人体の冷凍保存と似ています。過去は遠くのもの、例えば火星に鏡を取り付け地球から見ると、26分前の自分が見えますが、もはや修正できません。つまりビデオ動画と同じです。



ちなみに夜空の星は数千万年から数億年前の風景です、それゆえ、現在はずでに消えて無くなっているものも、あるでしょう。

## タイムマシン願望の実態

こうしてみると、タイムマシン願望とは、実のところ特権意識や現実（現在）逃避であったことが分かり、逆に現実社会をカイゼンしたり、今をしっかり生きる重要性が見えてきます。タイムマシンは自分だけが持ち、他者には持たせないと全員が考えたならば、それは誰も持つてはならないと言う意味になります。これと似た話を聞いたことがあるような気がしませんか？

そうです。核武装国家の言い分です。どの国にも負けない兵器を、どの国も持ちたがりです。



ではなぜ実現不可能で、可能だったとしてもたいして役に立たないタイムマシンを、人類は思いついてしまったのか、私たちが考え付いたものは、大抵実現するはずです。

それは私たちが時間の概念を持ち、常に未来予測を望んでいるからでしょう。あるいは過去の失敗を反省し、やり直せるならそうしたいと思う向上心があるからでしょう。

## だからこそ、AI

だからこそAIによる未来予測が期待されているわけです。ビッグデータを基にした、このエグイ占いは、確率が恐ろしく高く、一見ランダムに見える現象にも、法則性を見い出します。

未来予測といえば、ネクラなニュートンを「プリンキピア」(Philosophiæ Naturalis Principia Mathematica) で科学の大舞台に送り出し、自らの死後に来るであろう彗星の時期と方向まで予測するなど、カッコよく時代を生き抜いたイギリスの天文学者、エドモンド・ハレー (Edmond Halley; 1656 - 1742) が有名です。

実際AIによる犯罪予測システムは、すでにかなりの効果をあげているようです。ただしAIを使った犯罪も、当然大量に出ています。

つまり優れたセキュリティと、それをかいくぐる知恵比べは終わらない一方で、高い塀や鍵

の要らない社会を構築する方が、より効率的で生産性があるはずだ。



## 微妙な距離感

はるか先の人類は分からないものの、今はまだ直接のコミュニケーションが大きなチカラをもっていて、それは宇宙における重力同様、個々の距離のバランスを司っています。

しかしバーチャルなコミュニケーションだけでは、正確な距離感が掴みにくいのです。さらにその中に長く滞在すると、リアルな世界での距離感まで不安定になります。

これはちょうど長く船に乗り、強く揺られて



いると、陸が上がってもまだ揺れているように感じるのに似ています。ちなみにコミュニケーションに対応する言葉がプライバシーなので、コミュニケーション感覚の歪みは、プライバシー感覚の歪みに強く影響を与えます。

テクノロジーは重要ですが、最終的に未来に遭遇するのは、リアルな私たちですから、花見や子供の運動会をスマホ越しのテクノロジー経由だけで見るのはやめて、極力リアルな今の世界で完結させておくことが大切です。

未来は、バーチャルでは無意味で、必ずリアルなものですね。逆に言えば、タイムマシンはバーチャルな世界では、存在しても問題ないでしょう。

## メタファーとして

過去を分析し、未来を創り出す作業こそが、タイムマシンに比喩された人類の得意技です。ただ

し誤った経験値を見抜く必要があります。例えば20歳で免許を取得し、それから60年運転してきても無事故だったというのは、80歳を越えた明日の無事故を保証するものではありません。

50年間酒を飲んで運転して、一度も事故はなかったとか、200年間地震や噴火がなかったというのも同様です。

それ以上に分かるのは、私たちの身体能力や知能が際限なく向上している点で、もしかしたら脳には宇宙同様、暗黒領域が存在しているのかもしれない。

スタジオアワーハウス代表  
ヤナギダ・カツミ



# ガラパゴス諸島で垣間見た、動物の秩序

世界遺産

南米エクアドルのガラパゴス諸島では野生生物への餌付けは禁止されている。自然界で自力で食料を調達できる彼らに人間が介入するべきではなく、人の食べ物を与えることで彼らの栄養状態を狂わせてしまう懸念があるからだ。しかしひとつだけ、事実上これが許されている場所がある。

文・写真 バットフィッシャー・アキコ

うか。

## 驚くほど秩序ある世界

ここに集まる動物たちは皆おこぼれを期待している。しかし市場に並ぶ魚のほとんどは人間客への売り物となるため、おこぼれがもらえないのは少数だ。もし、我々人間が彼らの立場だつたらどうなるだろう。目の前に沢山の魚が並べられているのに食べることはできず、おこぼれは一握りの人だけがもらえて自分にはまわってこない……それならばと威嚇行為や力技を駆使して売り物の魚を盗む輩が現れてもおかしくないのではないだろうか。

しかし驚くべきことに、魚市場の動物たちはひたすら大人しく待ち続けるのである。アシカはかみついたり体当たりすれば人間がひるむことがわかるはずなのに、接客する漁師たちの足元でじっと待機している。べ



## 「世界一楽しい」魚市場

ガラパゴス諸島、サンタ・クルス島のメインロード沿いの小さな魚市場。月曜から土曜の朝と夕方に開場されるこの市場では、マグロやカサゴといった新鮮なガラパゴスの海の幸が並ぶ。一匹単位はもちろん量り売りにも対応してくれるため、注文に応じて漁師やその夫人らが自らさばき、客が必要な分量の切り身を購入する。島民のみならず観光客にも人気の魚市場だ。こ

こまで何の変哲もない普通の魚市場のようだが、上の写真を見ればなぜ「世界一楽しい」かが分かるだろう。そう、人間客より動物客の方が多いのだ。市場の開場時は待つてましたとばかり



リカンを始め鳥たちは上空からさつと奪ってそのまま飛び去る能力を持っているのに、なぜか人間客同様に地に足を着けて大人しく並んでいるものがほとんど。それがもしも魚をさばく包丁が怖いからということであれば、丸腰の購入客を襲う手だつてある。しかしせいぜい「お客様さん、今お魚買いましたよね？」というごくた視線を送るくらいで武力行使は一切しない。

## ならば動物同士で死闘か

人間に武力行使しないのであれば、運よくおこぼれをもらえた仲間を襲うのか。おこぼれが投げられるとわつとそこへ動物たちは集まるものの、それは大抵小さな切れ端であるため分け合えるサイズではない。だからこそこのおこぼれを口にくわえた途端周囲はいきなりトーンダウンする。完全に飲み込んでしまうまでは奪えるチャンスなのだから死闘



になつてもおかしくないはず。それなのにせいぜい少しばかり追いかけてみるものがあるくらいで、大半は「いいなー」という視線で見届けて終了。潔く諦めて次のおこぼれが来るのを待つのだ。

私はこの島で生活していた当時毎日のようにこの魚市場を眺めてきたが、彼らの秩序ある様子には毎度感心させられた。

## 秩序は人間にしかない？

迷惑行為や犯罪を行った人に対して「まるで動物」と表現するのを度々目にするところがある。動物は人間と異なり無秩序で理性がないという考えから生まれた表現のようだが、果たして本当にそうだろうか？

例えば、ガラパゴスリクイグアナは繁殖期になるとオス同士でケンカする様子を見かけ



人間はつい自分たちが最も優れた生き物であると考えてしまいがちだが、動物たちを観察しているとそれはおごりだと感じる瞬間が多々ある。自然界という厳しい環境で生きる彼らは、自分の欲が叶わないからといって無駄な乱闘や殺戮は行わない。私たちはむしろ、彼らから秩序を学ぶべきなのかもしれない。

## ◎バットフィッシャー・アキコ

ガラパゴスバットフィッシュ愛好家、NPO 法人日本ガラパゴスの会スタッフ。チャールズ・ダーウィン研究所のボランティアスタッフとして、一年半ガラパゴス諸島とエクアドル本土に居住した経験を持つ。



# 美は輝きだ

——美とカロノロジー——

# DAUGHTERLY WIDOW'S SPLENDOR

美は輝きだ(すばらしい)。  
Pulchritudo splendor (est).

まずは、この文をラテン語で覚えていただきたい！ プルクリトウードー・スプレンドル(エスト)。「トウー」と「レン」を強めに発音する！ エストは英語のtoに相当。通常、省略される。注↓贅沢をいえば、気持ち「スプレンドル」を一塊(スの中のウ、プの中のウがないつもり)で。

美は輝きだ、つまり比喩的な意味で、美は光である、という形而上学的美学、美の形而上学、伝統的な光の形而上学が背景にある。

伝統的というのがミソで、光は物質ではない！ つまり存在ではない、すなわち、存在を超えている！ という昔の人の思いを支えるために「役員」している。しかし現代では、そもそも「存在ではないなど」といつてられないので、「比喩的な意味で」として逃げるしかない。

注↓「存在」ではないが「存在」を超えている」に置き換わる(こっさり偉くなっている)と

ころに飛躍があるのは、何でも(競争で)上下関係・優劣を付けたがる嗜好による(ギリシア的といえば、ギリシア的。悲劇もコンテストだった)。要するに誰(何)が一番偉いのか、善のアイデアだったり、一者だったり、神だったり……ひっくり返って超越者という(善のアイデアはどっちかという超越物？ いや存在を超えているので「物」でもなかる)。

仮に光と言っているけれど、それはあくまで例え、物理学という量子的な光ではない、と。そもそも美(そのもの)も物質ではないので、輝きというほうが、概念同士、バランスはいい。

以上の前提で、何にせよ、よく分からないが、美はすごいんだぞ、と、いうことにして、そのすこさを文学や芸術作品(まれに自然現象)の解釈を通して理性的に快感を得ようという試みがカロノロジーである。

ギリシア語の美(カロン)、存在(オン)、理性(ノース)、学問(ロゴス)から合成してラテ

ン語にしたカロノロジーを英語化したもので、意味は、美を理性的に明らかにすることで、存在を超える美という最高の価値に理性的に迫ろうという企てで、具体的にはテキストや芸術作品解釈を通して、ということになる。難をいえば、最初から一番偉い何者か(美そのもの)が想定されている(信じられている、いないと困る)点と美を感じるための感性が抜け落ちている点ではなかるうか。

カロノロジーについては、日本図書協会選定図書『新訂 美について考えるために』を見ていただきたい。そしてカロノロジー事例はというと、『東洋の美学』の「荘子の形而上学的美学」(二六八ページ)や「放送大学紀要」プラトン「パイドロス」冒頭の解釈が参考になる。一見類似的手法でありながら、カロノロジーにならない分析事例として、講談社学術文庫『アリストテレス』の古書七行考(四〇四ページ)が対照的である。(ビナケス出版・hamacken)

## フィロカルチャー IMS2019 夏公演 お芝居レトロ鍋版・朗読劇 ~テーバイ王家物語・第1部~ ソポクレス『オイディプス王』



**CAST**  
■公演日 二〇一九年七月(三)日(全)  
一四日(日)二七日(全)二八日(日)昼  
の部 一三時半・夜の部 一八時 全八回  
公演  
■会場 日本美容専門学校・校友会館B  
1(東京都新宿区高田馬場一・二・三)  
■料金 前売二八〇〇円  
当日三〇〇〇円  
■出演者(50音順)  
暁 雅火 大蔵 紫乃  
cue 小嶋 美奈子  
永長 之衣 夏目 祐里  
橋本 深猫 好沢 晴美  
(以上レトロ鍋)  
内海 詩野 小野寺 博  
小林 龍実 坂本 敏也  
前田 暁彦 二本 隆  
結城 泰  
■スタッフ  
演出 さいけ(劇団ホボボ)  
作曲・演奏 cue(レトロ鍋)  
振付 橋本 深猫(KENプロデュース)  
照明 嶋田 亮(サテライト東京)  
宣伝美術 小嶋 美奈子(レトロ鍋)  
制作 MIZUKI(べんぐ組)  
当日制作 中川 拓也(team365歩)  
■協力(50音順)  
アローズプロ  
演劇集団 壹会  
グッドラックカンパニー  
芝居プロダクション  
劇団ホボボ  
KENプロデュース

合同会社加藤企画  
サテライト東京  
シノハラステージング  
team365歩  
てふてふ組  
■主催 哲学文化塾  
(古道友信記念文庫)  
あらすじ  
スフィンクスの謎を解き、テーバイの王座に就いたオイディプス王。しかしテーバイは疫病が蔓延し、危機に瀕していた。オイディプスは王妃イオカステの弟クレオンを使いに出し、神のお告げを聞いてくるよう命じた。戻ってきたクレオンが、「前王ライオスを殺した者が全ての元凶である」と神託を話すと、オイディプス王は盲目の予言者ティレシアス呼び出した。次々と真実が解き明かされ、オイディプス王は運命の渦に巻き込まれていく。  
ギリシア悲劇最高傑作と謳われた『オイディプス王』を歌やダンス、パフォーマンスを取り入れた新しい朗読劇スタイルでお届け致します。(レトロ鍋公式ブログより)

# 制作インタビュー



レトロ鍋版、二度目の朗読劇

夏目 今回は、前回(シェイクスピア『ペリクリウス』(二〇一七年))にも増して、積極的に動きを取り入れることをレトロ鍋版・朗読劇の特徴の一つとして打ち出そうと思っています。加えて、音楽の役割として、ストーリーにコミットするような感じで、とても重要な要素になり……。そうなの？ 気が、します。さいけ 動きに関しては、通常、演出している舞台上に寄っていくと思います。朗読劇というよりもパフォーマンス劇というような作品になればいいと、これは前作もそうですが。夏目 前作では、本を持っているシーンが思い出せない、朗読劇だったっけ？ という感想



かく、クロスに可能性を感じています。夏目 歌ったり、踊ったりをレトロ鍋らしく表現したいです。cue 今回は、作詞・曲に加えて、クロスとして舞台上立ち、弾き語りもします。歌も動きも当時のものを再現するのは難しいし、参考にするにもそのまま残されているわけではないので、ここはひとつ、自身のオリジナルテイで勝負！ というくらいの覚悟で望みます。

一番の苦労は、歌詞でした。文語調の、読むのを前提としたような、聞くだけでは分りにくい訳詞から離れて、メロディに乗った聴いて分かる歌詞を作るのが大変でした。状況の説明やシーンを盛り上げるなど、重要な役割を担っているのですが、私にできるかどうか、不安でしたが、今日(五月一七日)が締め切りと決められていたので、とにかくここまで！ ダメだしNG！ という感じで持つて来ました。

サウンドは、ピアノ、合唱は最大三声です。リズムは(クロスらしく?)若干複雑な曲も

も頂きました。

「クロス」の可能性

さいけ ギリシア悲劇は、劇を聴くという言い方がとても合うと思います。ただ、今回の『オイディプス王』に関しては、オイディプス以上に、右往左往するクロスの方がすごく印象的です。個人的には、これはクロス劇だ！ と思えるほどです。そもそも困っているのは民衆で、その民衆がオイディプスの一挙手一投足に振り回され、てんやわんやしている、その姿は、観劇する側の心理とも重なるような気がします。そういうところから、今回は、お客さんを巻き込んだセットを考えてみたい。また役者に委ねるところですが、クロスの即興的なムーブメントもわくわくする要素です。とに

ありますが、言葉は十分に、聴いてくださる方の心に響くという作風のつもりです。

さいけ いろんなバリエーションを工夫して、とにかく、誰が観ても聴いても飽きない、面白い演出を考えてます。例えばある状況が長台詞で語られるシーンなど、逆に視覚化することも考えています。台詞がなくても分かるというくらいに。……

夏目 レトロ鍋版・朗読劇『オイディプス王』、どうぞお楽しみください。次回は、一、一、二月『アンティゴネー』です！



お芝居レトロ鍋：2016年10月、現役俳優を中心に多彩なメンバーが集まって、十数名からなる「ボランティア団体レトロ鍋」が誕生しました。その中の俳優たちで構成される演劇ユニットがお芝居レトロ鍋です。全国各地、ご依頼に応じて既存作品のほか、環境問題や教育問題など、社会問題をテーマにしたオリジナル作品の企画・制作、幼稚園や保育園、小中学校での公演、セミナーや展示会、祭りなど、様々なイベントへ、様々なお芝居をお届けします。またオリジナル紙芝居も制作・上演しております。公演収益はボランティア活動(ボランティア団体「レトロ鍋」)の資金とさせていただきます。ホームページ <http://www.retro-nabe.com/> ブログ <http://s.ameblo.jp/retro-nabe/> twitter @retro\_nabe



cue (音楽 レトロ鍋)

さいけ (演出劇団ぼぼ)

夏目祐里 (レトロ鍋・代表)

※悲劇

ギリシア語でトラゴイディアアという。トラゴス(ヤギ)とオイデー(歌。余談だが、『アリアス』冒頭の「怒りを歌え」の『歌え(アエイデ)』と同語源)の合成語(ヤギ歌)で、トラジディーの語源である。言葉のうえで、悲しい要素らしきはどこにも見あたらない(ハッピーエンドのギリシア悲劇もある)。少なくとも悲劇という日本語の語感やイメージとはそれほど近くもないようだ。

ところで、なぜヤギ歌？ と考えても、おそらく答えは出ない。悲劇の起源も分らない。有名なニーチェの『悲劇の誕生』も、もちろんインテリである。何にせよ、作品に親しむに限る。

当時(前五世紀)の、悲劇の特徴については、国家行事、コンテスタ、仮面劇、合唱隊が歌う、せりふは韻律にのり、会場は野外円形劇場、キャバは、かなり大きく(少なくとも東京国際フォーラムAよりは、後方座席からは、仮面の区別も難しいような気がする(視力による?)。このあたりは押さえておかないと、ヘンな解釈をしかねない。※ギリシアとギリシャ？

どちらも正しくないで、使用上、混ぜなければOK。英語のグリースにせよ、ラテン語のグラエキアにせよ、ギリシア語のグライコスにせよ、アカヤカ以前に、ギでなく、グなので、スタートでこけている。慣用的に、一般にはギリシャ、昔のこと限定でギリシア、という傾向が見られる。

演出コメント

初めてのオイディプス演出で若干緊張しております。この作品とどう向かい合えば良いか、只今絶賛思案中です。何せまだ、このコメントの時は稽古が始まっておりませんから。それでも古典に向き合える時間はとても有意義で幸せなものです。そこには必ず色々な発見がありますから。最後まで興味深く見ていただけたなら幸いです。



さいけ (齊藤圭祐) ポポポ主宰として全作品演出脚本を手掛ける。お芝居レトロ鍋、朗読劇『ペリクリウス』や大阪城ホール文化振興部企画「CONNECT vol.3」UNFIGURE「RENGA」で優秀賞受賞等がある。

俳優として MODE (演出：松本修)「唐版風の又三郎」第11回読売演劇賞、演出家賞受賞作品や「変身」第15回読売演劇賞、演出家賞受賞作品に参加。ブルドッキングヘッドロック (演出：喜安浩平)「Do! 太宰!」やKENプロデュースに出演。「1824～ベートーベン～」彩の国さいたま芸術劇場大ホールでは主演を務める。

ひとこと オイディプスを演出するのは初です。色々勉強することはありますが楽しみたいです。

うつみ  
しの  
内海 詩野

イオカステ



**プロフィール** 桐朋学園短期大学演劇専攻を卒業後、2001年に演劇集団「壺会」設立。以降全ての公演に出演他、舞台客演多数。

**ひとこと** この物語は平たく読むと、神託のままに転落していくカワイソーな人々を「志村！ うしろ！ うしろ！」と観客が見守るドリフ？ な話になってしまいます。しかし、明確な意思を持ち、演劇として立ち上げることで《真実》《運命》と《人間》がバチンと直面してしまったときに、どの様な「心」が生まれるのか目の当たりにすることができます。傑作と言われる古典に携われて幸せです。届きますように。

まえだ  
あきひこ  
前田 暁彦

クレオン



**プロフィール** 大学院修了後、地元信州での舞台公演に参加し上京、ショウデザイン舎（現劇舎カナリア）を経て、演劇のほか、童話や詩の朗読、オペラの黙役など様々な舞台企画に参加。

**ひとこと** 無知にして初見——それでいて、これが劇だ！——これこそ劇だ、とあらかじめ知っていた気がするの、いつの記憶、どんな錯覚？ 個人の幼年期か、人類のそれか、あるいは、その後のあらゆる劇が知ると識らずとにかかわらずこれを規範とただけか。僕たちは言葉の魔術の圏内にある。だとすれば僕たちは、もう現実に、この悲劇から逃れられない。デジャヴ？ 二度目のように思っても茶番とは違う。

おの  
ひろし  
小野 寺博



ティレシアス・コロス⑥

**プロフィール** 朋学園短期大学部専攻科卒業後、フリーで活動。年間多数の舞台を中心にイベントや映像等に出演。現在、アローズプロ所属。

**ひとこと** ギリシャ悲劇などと言うと何だか小難しい感じがするのですが、中身は人間ですので現代に通じるものがあり、今回もそれが感じられる様に演じていければと思います。如何だったかは見たお客様次第！ 楽しんでいただけたなら幸いですね。

# CASTING

みつもと  
たかし  
三本 隆 オイディプス



**プロフィール** 東京都出身。劇団若草付属養成所卒業。劇団若草卒業後はフリーとなり舞台演劇を主な活動としつつ、2016年からは合同会社加藤企画に所属し映画、TVドラマ、CMなどの映像作品にも出演している。

**ひとこと** 古典はあまり演じたことはありませんが、ギリシャ悲劇の最高傑作とも言われるこの作品のオイディプスの数奇な運命と一喜一憂をお客様に届られるよう頑張ります！

あかつき  
まさか  
暁 雅火 羊飼い・コロス⑩



**プロフィール** 新劇出身アクト青山卒。玉川大学演劇専攻卒。得意分野は道化インテリ飛び道具系。舞台出演経歴多数多種。レトロ鍋では「舞茸」という具材名で活動中、衣裳と司会を担当して舞茸。

**ひとこと** ギリシャ悲劇といえば自分も『トロイアの女たち』から演劇を本格的に始めたことを思い出します。あれから二昔……少しでも人生の重みで表現ができたらと良いと思ひ舞茸。

公演に向けて

今回、お芝居レトロ鍋版・朗読劇 くテーバイ王家物語・第一部、ソボクレス『オイディプス王』に出演いたします三本隆です。自分がお芝居に興味を持ったのは中学校時代に初めて「声優」という職業を意識してからでしたが、実際にお芝居を始めたのは20歳になってからでした。そのとき入った事務所です。そこからは舞台演劇がほとんどだったのもあり、それから舞台の面白さに気づき、その後は舞台演劇を中心に活動してまいりました。しかし古典をやる機会はほとんどなく、読むこともなかったのだ。

ほとんど知識や経験ありません。

そんな自分が今回オイディプス役をやらせていただくことになりました。本読みの段階で長セリフや喜怒哀楽も激しくかなり大変だなという印象でしたが、演出のさいけさんの「長セリフはお客様に飽きさせずに聞いてもらうのは大変だけど古典の醍醐味の一つだ」という話を聞き、楽しみながらも今回の公演は自分の挑戦と考えました。古典が好きな方にはお見苦しい点があるかもしれませんが、自分なりのオイディプスを皆様にお届けできたらと思います。

こばやし  
りょうま  
小林 龍実

神官①・コロス②



**プロフィール** 役者としても人間としてもまだまだ軽輩な身ではありますが、なにとぞよろしく願ひいたします。

**ひとこと** 転落、悲劇、知ることの残酷さ、現実の非情さを感じました。神様に事情があり、人間味があるんだなあ。と改めて感じました。



きゅう  
cue

作詞, 作曲, 演奏

**プロフィール** 36歳で初舞台を踏み、舞台出演20本ほど、映像経験あり。所属なし。Facebook, Twitter, Instagram 随時更新。レトロ鍋では「春菊」という具材名で活動中。

**ひとこと** 神々がこれほどまでに身近な世界。現代では想像もつかない世界。つまり、伝え方は様々あっていいのではないかと。だって、当時生きた人などこの世にはいないのだから。悠久のロマンに思いを馳せ、楽しんでいただけたら嬉しいです。

**プロフィール** 日本大学芸術学部放送学科卒業。大学卒業後、声優事務所を経てKENプロデュースに所属。現在は主に舞台を中心に活動中。レトロ鍋では「餃子」という具材名で活動中。Twitter アカウント picopicopon\_

**ひとこと** 子供の頃ギリシャ神話やローマ神話を読みあさっていたときにも思いましたが、昔の人が描く物語は結構どろどろしてる。オイディプスにも人間のどろどろがつまみます。昼ドラ好きな方には特におすすです。

イオカステの侍女・コロス⑤



はしもと  
深猫 振付

**振付について** 『朗読劇なのに振付ってどゆことだコレ???』。振付の依頼を頂いたときの正直な感想です。専門外だし、物凄く右往左往することになるんだろ? まあ、何事もチャレンジです! 今これを読んでくださってる皆様は無事完成形をお届けできていますように。



はしもと  
深猫 振付



こじま  
美奈子

オイディプスの娘・コロス④



コリントスの使者①・コロス⑦

**プロフィール** 学生時代、ピッコロ演劇学校にて学ぶ。現在舞台を中心に活動している。レトロ鍋では「水菜」という具材名で活動中。

**ひとこと** ずっと古典に触れたいと思っていたので、今回この朗読劇に参加できてとても嬉しいです。古典特有の長台詞、言葉の綺麗さ、音、世界観をお伝えできるよう精一杯挑みます!

ながおき  
の衣



よしざわ はるみ  
好沢 晴美

コリントスの使者②・コロス⑧

**プロフィール** 会社員生活を経て、舞台への想いに目覚めミュージカルのスクールを卒業。現在は舞台を中心に活動している。レトロ鍋では「こんぶ」という具材名で活動中。

**ひとこと** ギリシャ悲劇の最高傑作と言われるこの作品に参加できるなんてとてもありがたいです。全身全霊で挑みます。

**プロフィール** 若い頃は養成所で映像を勉強していたが結婚後タイBKKの日本人劇団、劇団サザン天都で活動。2012年日本帰国後、小劇場の舞台に年3、4本出演。レトロ鍋では「はんぺん」という具材名で活動中。  
**ひとこと** 初めて台本を読んでやはり難しい言葉や言い回しが多いなあと思ったが、お客様にどう伝えられるか歌って踊る朗読劇って? と妄想が膨らんだ。現実はどうなるのか楽しみ!

さかもと としや  
坂本 敏也

報告者・コロス⑨

**プロフィール** 東京都出身。こう見えて栄養士の資格持ってます。詳しくは、下記をチェックしてください。

Twitter → \_toshipachi\_  
Instagram → toshipachi

**ひとこと** ギリシャ悲劇はもちろん、朗読劇が初めてなので楽しみです。



# 「わが哲学を語る」を語り継ぐために



人生の贈り物——四つの物語  
今道友信・著、葉祥明・画、佐藤孝雄、池田雅之・監修  
かまくら春秋社・2011年発行

「人生最大の贈り物とは何でしょう?」。教科書に正解が書かれていないような問題を考える面白さを知らないで死ぬのももったいない。今道友信のエッセイは、詩的に、知的好奇心を刺激し、そのような探求や思索を自然に滑らかに促してくれる。さらに、理性的でありながら、心、魂をダイレクトに共鳴させるストーリー的要素に満ちたものも多い。この際、意識高い系の方々にぜひ、お読みいただきたい!

今道は、人間が生きていくうえで、何が大切なのかを訴え続けた哲学者でもある。美の実践であり、エコエティカであり、魂の世話(で、日本語で「ア・デウス・アシシテ・ノ・ソウ」の訳語)である。これらは高尚な知識でも、深遠な理論でもなく、滑稽なほど哲学的で抽象的言葉遊びにすぎないような現代哲学でもない。ただ心を美しくすること、というシンプルであるが、実現は大変困難な課題である。今回のテーマとしての「人間が人間に贈ることができる最善のもの、それは『よい思い出』である」とは、今道がガブリエル・マルセルから直接贈られた言葉である。珠玉の言葉が散りばめられたすばらしい



今道ご夫妻へ祝いと感謝を込めて  
『人生の贈り物——四つの物語』(かまくら春秋社) 出版記念会より。

## 人生の贈り物——四つの物語

……それは「よい思い出」です。どれほど立派な品物でも、いつかは壊れます。壊れなくても色が褪せてしまいます。でも、よい思い出は一生かわることはありません。……

エッセイ集を読むだけでも、人の心は確実に美しくなる。そんな書物を多くに人々に紹介したい。  
『断章空気への手紙』(TBSブリタニカ、一九八三年)、『出会いの輝き』(女子パウロ会、二〇〇五年)、そして本コラムで取り上げている『人生の贈り物——四つの物語』である。

文・演賢  
制作協力・鎌倉大仏殿高徳院(大異山高徳院清浄泉寺)

## 太陽と月 ～ジャンヌ・ダルクの光～

ジャンヌ・ダルクの苦悩や希望・・・そして願い。  
彼女が最期に残した欠片と一緒に探しに行きませんか?  
「あなたは私。私の光。それも脆く儂いガラスの光」

入れ子構造外側の2人を除き、登場人物6(5?)人、それぞれのパースペクティブで切り取られた個々の物語の総体がストーリー全体を紡ぎ出すような展開。12/8に、ご講演いただいた榊山先生から、「本当に、ジャンヌ・ダルクのイメージそのもの」とのうれしいご感想も頂戴した。

出演  
彩未理加  
相原真志  
朝吉大輝  
稲村大輝  
武内康浩  
高橋真実  
大和鳴海  
竹下久美子



脚本/演出 大和鳴海  
照明 湯山和弘 (METAL MOON)  
音響 鶴見直斗  
舞台監督 大和鳴海  
制作 劇団 Human Dust Union  
主催 哲学文化塾 (今道友信記念文庫)

今道友信メモリアル・シンポジウム (IMS2018)  
2018年11月17日(土)・12月8日(土)、各2回公演  
会場 日本美容専門学校 コルティーレ2F

劇団 Human Dust Union: <https://twitter.com/Humandustunion1>



榊山一印刷博物館館長による歴史トーク(12/8・昼公演)、  
テーマは「パリを守った謎の女性たち」。ジュヌヴィエーヴ(5世紀)に戦う聖女の起源を求め、マリアンヌ、自由の女神に至るまでの歴史的検証を踏まえ、ジャンヌ・ダルクの実相を鮮やかに浮き彫りにするという刺激的な講演。

# 分けたい！

# でも分けられたくない！

piece2

分けることは分かること

数学クラスタの間で「数学ガール」という本が人気です。この本は、3人の高校生が数学に取り組み対話形式の小説です。この本の中で主人公はよく「分けることは分かること」という言葉を使って問題を一つ一つの要素に分解していこうとします。それによって読者も情報が整理され、理解しながら一緒に勉強していくことができます、という良書です。

最近、「LGBT」に代表されるように既存の「男/女」とは異なる枠組みの性分類が話題となっっています。

私たちは性をうまく「分ける」ことで性を「分ける」ことができるのでしょうか。

## 分類のはらむ形而上学的な問題

現代の自然科学は長い間、この「分けることは分かること」という方針で物事を要素や単位

枠は（分類者がそれを「発見」する以前から）実在していたのか？ という問題提起です。

三中氏は「種」は、「分類される物」の側にあるのではなく、ほかならない「分類する者」の側にあるのだということが理解されるようになるだろう」と締め括っています。

分類とは分類者の視点を表現するものにすぎないのであって、実際にその分類があるかどうか



【図版説明】世界を切り取る仕方によって見え方が違う

A: 3色の粘土 B: 粘土をより合わせて…… C: ミックスする  
D: 様々な角度から切ると多様な模様が出る。

に分解してそれを再構成することで事象を理解しようとしてきました。

例えば、生物学の中には「分類学」があり、「生物はどのような種に分けられるのか」という問いを立ててきました。

技術の進歩もあり、遺伝子レベルでの分類などが登場する中で、実は重要な未解決問題が手つかずのまま残されていることが指摘されています。

生物学者の三中信宏氏は著書「分類思考の世界」の中で、これまでの分類学の歴史をひもときながら、次のような問題点を浮き彫りにします。我々が生物を「種」に分類するとき、「種の存在」が前提となっているが、はたしてそのような種は実在するのか、という問いです。例えば、私たちがイヌとネコは同じグループではない、というとき、自然界にもともとあるイヌとネコの分け目を「発見」したということ

かは確約されていないのだ、というのは的を射た議論だと思えます。

その議論を性に当てはめてみましょう。性を有限個のグループに分類するとき、実はそこでは「性の存在」は保証されているわけではないということに留意しなければならぬのです。

そこに大きく現れてくるのは、分類者の性別観なのかもしれません。性について発言するとき、前提にある「私の性別観」に無意識になってはならないのではないのでしょうか。

## 分類に臆病になつてはならない

ここで、性の分類の限界を示唆したことについて、分類することそのものが悪いこと、あるいは意味のないものであると断じようとするのは決してありません。

物事は様々な色を混ぜ込んだ粘土のように切り口によって見せる形、様相が異なるのです（図版）。性について考えるときに大事なことは様々な観点を複数持ち、その「視点」をシチュエーションや目的に合わせて柔軟に切り替えられる手段を

なのでしようか。

それともそのような「分け目」などなく、イヌとネコは異なるという一つの見方に過ぎないのでしょうか。

この形而上学的な問いは生物学だけではなく「分類」という行為が常に内包している問題のように思えます。

## 「性」は実在するのか

したがって、「いわゆるLGBT」もそのような分類学の問題と同様の問題を抱えていることをここで指摘しておきたいと思えます。

これは「性的マイノリティ」の存在を否定する意味ではありません（現にわたしが存在していますから）。

性的マイノリティをLGBTQIA……という枠へ分類するとき、その分類されるような

持つことだと思っております。

科学的な分類法はその手段として用いることができるものです。多様な「視点」について理解することが他者を理解することへの第一歩であり、様々な分類法を重ね合わせることで世界をうまく視るためのカギとなるのだと思えます。

### ★読書案内

結城浩、『数学ガールシリーズ』、ソフトバンククリエイティブ（2007）  
三中信宏、『分類思考の世界 なぜヒトは万物を「種」に分けるのか』、講談社現代新書（2009）



◎夏目愛佳（なつちゃん）  
自分の生きる道、性に悩み2017年に「量子論的な女の娘」という考えに至る。その時から目の前が開け、同人誌的にサイエンス&個人哲学の本「あたらしい「わたし」の生き方」の執筆を開始。現在下記サービスにて販売中（<https://libra.sc/products/detail/305>）。



あたらしい「わたし」の生き方  
A5判・76頁



「詩と哲学の闘争」という言い回しがある。

詩と哲学は、敵対するものであると考えられていた。その理由は幾つか考えられるが、敢えて一つ挙げるとするならば、哲学の求める論理的思考だけでは、詩は生まれえない、ということであろうか。つまり、詩は一種の神話なのである。

かのプラトンは、若い時分に詩人になろうと考えていたらしい。あるとき彼は偶然ソクラテスに会い、「詩なんぞ書くとは」とソクラテスに諷められ、それによりプラトンは書きためていた自分の詩作品を火の中に投げ、ソクラテスの弟子となり、哲学者としての道を歩むことにした、と伝えられている。

プラトンは詩か哲学かという二者択一を行ってたわけである。「詩と哲学の闘争」の一例と言える。

しかし、今道センセイは、「私の場合には『詩と哲学の闘争（＝アゴーン）』ではなく、『詩と哲学の和合』である」と洒落交じりに語っていた。プラトンのように二者択一を迫られても、センセイにはできなかったらう。なぜならまさにこの二つは和合しているので、どこからが詩で

どこまでが哲学でという区別はつけられないのである。

そのことをおそらくセンセイは自覚していなかったと思うし、私がこんなことを言うかと否定するだろうが、そうなのだ。

センセイは「哲学者」だと自他共に認められていると思うが、私の中では「詩人」なのである。しかも並みの詩人などではない。恐ろしく頭の良い詩人である。「哲学的詩人」いや、「言葉の魔術師」と言ってもよいかも知れない。とにかくセンセイが紡ぎ出す言葉は美しく、センセイ自身がその美しさに酔ってしまい、その所為でなぜそれを書こうとしたのかを忘れてしまうことさえもある。この「酔酩」を超越したときに、センセイの真骨頂があらわれるような気がする。センセイの詩の一節を引用してみよう。

「この世に存在するということとは重さの傾斜をもつことである／大地は存在を引き／大地に存在は影を投げる／しかし／存在することの目的は／透明になることであった／天使たちや音楽や 先祖たちのように」

「重さの傾斜」とは？ 「大地が存在を引く」とは？ などと考えてはいけない。この美しく紡がれた言葉を、音にして美しく響かせて繰り返して味わってみるのだ。

そうすると、「手かせ足かせにつながれているかのよう」に、日々を生きているわれわれにとって、真に生きるということは、透明になること、つまり心を自由にしてやること、心を軽やかな状態にしてやることなのだ」という今道哲学が姿を見せる。

美しいものの中に、善きもの、真なるものがある。だからセンセイは美しい言葉で考えなければ素晴らしい思索は出てこないとよく言っていたのだと思う。

「哲学的詩人」とか「言葉の魔術師」と先に述べたが、決してセンセイを馬鹿にしているわけではないので誤解しないでほしい。これは私からのセンセイに対する最高の賛辞なのである。



©Imamich Christine

## —お知らせ—

### IMS2019秋冬公演情報

11月23日(土・祝)、12月7日(土) 予定

お芝居レトロ鍋版・朗読劇

ギリシア悲劇

ターバイ王家物語・第2部

『アンティゴネー』

.....

夏公演『オイディプス王』に続き、11月、12月

は『アンティゴネー』を上演します。時系列で

いえば、『オイディプス王』に続く「コロノスの

オイディプス」、さらに「ターバイ攻めの七将」

の後、『アンティゴネー』でターバイ王家の悲劇

は、一応終わります。一応、というの、一人

残されたアンティゴネーの妹イスメネーが、ま

だ生きているからです。それはともかく、11月、

12月の秋冬公演、ご存知お芝居レトロ鍋の朗読

劇『アンティゴネー』をぜひご覧ください。

.....

IMS(今道友信・メモリアル・シンポジウム)は

今道友信氏を記念し、日本美容専門学校(東京都新宿区)の施設をお借りして開催しているイベントです。

## ●後記に代えて●

～ギリシア文学は文学になったので～

ホメロスの叙事詩もサッポアの抒情詩も悲劇も喜劇も文学ではなかった！

歌であり、語りであり、演劇であり、しかも演劇といっても公共事業であり、要するに黙読する読み物ではなかった。読み物、つまり今日という文学となり、研究の対象として扱われるのは、ざっくりヘレニズム時代以降である。今号のメイン・テーマっぽいギリシア悲劇についていえば、特に偉い学者が「悲劇は叙事詩同様、演技を伴わなくても悲劇の効果を生む。なぜならどんな作品なのか、読めば明らかだから」などとメモったものだから、以降二千数百年、今日に至るまで、悲劇は黙読対象ともなり、おぞましい量の研究書、論文、感想文の山脈が連なることになった。黙読対象としてのマニアックな研究や解釈、それはそれで面白いかもしれないが、舞台を見る楽しさや上演しなければ分からない要素が抜け落ちてしまう。作品とは何か？ とは、なかなか大問題だとは思いますが、厳しくいえば、そのとき、その瞬間、目の前で上演されているものが作品ではないだろうか。台本でも出版物でもない。そう考えれば、昼の部の『オイディプス』はよかったけど、夜の部はいまひとつだった、ということも普通に起こることである。お芝居レトロ鍋版・朗読劇『オイディプス王』をご覧いただき、いまひとつだと思われた方も大丈夫！(←何が?) 再度ご覧いただければ、次回はきっとすばらしい、今回、すばらしいと思われた方、もうはまだなり まだはもうなり！ 再度ご覧いただければ、次回はさらにもっとすばらしい、はず。

(hamacken)

■フィロカルチャー 2019年春夏号 ■制作協力 大異山高徳院清浄泉寺 ■編集発行人& DTP 演賢(hamacken)  
■発行所 哲学文化塾(今道友信記念文庫) 日美学園日本美容専門学校 ■e-mail: info@philoculture.jp  
■企画編集 ビナケス出版有限公司 ■url: http://philoculture.jp/

次号「フィロカルチャー」は2019年11月発行予定です。

# La Philoculture



philoculture.jp



もっと源流へ、もっと本質へ！

哲学文化塾